

Ⅱ. 研修内容に関すること

1. 研修期間 (12)か月

2. 研修プログラム

「新人看護職員研修ガイドライン」に基づく新人看護職員研修について記入して下さい。なお、新人保健師研修はその該当箇所がわかるよう記載して下さい。

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※2 (該当項目に○を付けて下さい。)		研修場所 (※3)	時間数	研修内容
		講義	演習			
23.3	看護部の方針・目標	○		部署外 講堂	45分	当院看護部の方針・目標について
23.3	看護方式・教育計画について	○		部署外 講堂	45分	当院の看護方式について 当院の看護部教育計画について 新人教育計画について
23.3	看護倫理	○		部署外 講堂	1時間	看護倫理について 看護倫理綱領の内容について
23.3	記録について	○		部署外 講堂	2時間	当院看護記録の基準について 看護記録の記載方法について
23.3	放射線について	○		部署外 講堂・放射線科	2時間	MRI検査の方法・注意事項について 放射線科の見学実習
23.3	採血・注射研修	○	○	部署外 講堂	7時間	採血・注射実施時の手順・注意事項 手技について・安全確認
23.3	呼吸ケア	○	○	部署外 講堂	1.5時間	正常音を互いに聞きあう 吸引のデモ機を使用し体験
23.3	閉鎖式輸液ラインの取り扱い研修	○	○	部署外 講堂	1.75時間	閉鎖式輸液ラインの使用法
23.3	輸液ポンプ・シリンジポンプ研修	○	○	部署外 講堂	3.5時間	輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法 使用上の注意について
23.3	薬について	○		部署外 講堂	45分	麻薬・ハイリスク薬の管理 使用上の注意、処方箋の読み方等

23.3	皮膚ケア	○	○	部署外	講堂	2時間	皮膚ケアの基本 適切な体位変換の方法
23.3	インスリン注射・SMBGについて	○	○	部署外	講堂	2時間	インスリン注射の注意点・手技について 血糖自己測定器の使用方法について
23.3	メッセンジャー研修		○	部署外	院内	3時間	メッセンジャーに付きメッセンジャー業務を実践する
23.3	配属先研修		○	部署内		32時間	各部署のオリエンテーションを受ける 看護師について看護業務の見学
23.4	医療人として、基本理念	○		部署外	講堂	1.5時間	医療人としての心構え・病院の理念について
23.4	新人に期待すること	○		部署外	講堂	1時間	新人職員に期待すること
23.4	勤務者の心構え	○		部署外	講堂	3時間	医療人として社会人としての心構え 患者本位のチーム医療について
23.4	当院の現況	○		部署外	講堂	1.5時間	病院の現況を知る
23.4	病院における接遇について	○	○	部署外	講堂	4.5時間	接遇について(事例検討・ロールプレイなど)
23.4	薬の取り扱い	○		部署外	講堂	1.5時間	薬剤の取扱における注意事項など
23.4	高齢者の看護	○	○	部署外	講堂	1.5時間	高齢者の看護における知識や態度を現場の管理者より学ぶ
23.4	救急蘇生研修	○	○	部署外	講堂	4時間	急変時の対応について、講義とグループ演習、個人テスト
23.4	病院体制・就業規則	○	○	部署外	講堂	2時間	病院組織体制・就業規則について学ぶ

23.4	避難具の取扱	○	○	部署外	講堂	2時間	災害時の患者の安全を守るための行動 搬送の方法 火災時の対応の仕方について
23.4	緩和ケア	○	○	部署外	講堂	3時間	緩和ケアとは何かを学ぶ グループワークで事例を通して学ぶ
23.4	地域医療連携 について	○	○	部署外	講堂	1.5時間	地域医療連携について(地域包括支援センター、訪問看護ステーション、医療相談、紹介受診・逆紹介受診など)
23.4	外来業務	○	○	部署外	講堂	3時間	外来での患者対応や業務について現場見学実習を通して学ぶ
23.4	排泄ケア	○	○	部署外	講堂	2時間	排泄ケアの基本について 排泄援助時の個人の尊厳について オムツの使用方法について
23.4	感染予防	○	○	部署外	講堂	3.5時間	標準感染予防策について 手洗いの実習
23.4	個人情報保護・情報セキュリティ	○		部署外	講堂	1.5時間	個人情報保護と情報セキュリティについて
23.4	リスク管理	○	○	部署外	講堂	4.5時間	安全に医療を行うための基本的事項について インシデント事例から安全管理について学ぶ 安全管理マニュアルについて学ぶ
23.4	医療ガスの取扱	○		部署外	講堂	1時間	病院で使用する医療ガスを知り、使用上の注意や管理方法を学ぶ
23.4	電子カルテと看護過程	○	○	部署外	講堂	5.5時間	看護過程について再学習し、電子カルテの記録に結びつける。 電子カルテの操作教育
23.4	歩行ラリー	○	○	部署外	院外	4時間	病院周辺をペアを組んで、歩行ラリーを行い病院と地域を知る
23.4	トリアージ訓練	○	○	部署外	講堂	3時間	災害時のトリアージ訓練
6	褥瘡研修会	○	○	部署外	講堂	4時間	褥瘡予防・褥瘡ケアに必要な知識について (褥瘡リスクアセスメント・褥瘡ケア方法・褥瘡分類) 体位変換実技演習

7	3ヶ月フォロー研修	○	○	部署外	講堂	3時間	新人同士の情報交換と仕事への活力をつける (伝達ゲーム・仲間同士の話し合い)
10	6ヶ月フォロー研修	○	○	部署外	講堂	2時間	働いて悩んだこと、考えたことなどを情報交換し、今後に役立てるようにする 看護技術チェックリストに基づき経験および到達度を確認する
11	基礎看護技術研修	○	○	部署外	講堂	6時間	基礎的看護技術が安全安楽に実施できる手技の再確認 体験学習(食事介助、車椅子・ストレッチャー・スライディングボード乗車体験・モデルを使用しての聴診など)
24.2	多重並行業務事例検討	○	○	部署外	講堂	3時間	多重並行業務における業務調整が出来るように考える
24.3	事例検討会	○	○	部署外	講堂	4時間	事例を通して1年間の看護の振り返りをする。 看護経験を文章にまとめ発表する 他の新人看護師の発表を聞き共有することでお互いの成長を感じ取る
24.3	1年フォロー研修	○	○	部署外	講堂	4時間	1年間の振り返りと2年目に向けて主体的・自立的な取り組みができるようにする。(対人関係能力・テクニカルスキル・ヒューマンスキルについて知る) TA(自己分析)

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○を記入して下さい。両方に○を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

看護部門:看護部新人委員会が3月と1年間計画を立案し、集合研修を主催する。そのほかですべての新人職員対象に3カ月と1年フォロー研修を実施。
病院全体:職員教育委員会により4月前半に全職種合同の新人研修を実施。
各看護単位:4月後半より、1対1でプリセプター(実地指導者)により半月位を目安に指導する。以後は新人看護職員をプリセプターとともにをチームで支援し、各部署の特殊性の看護について指導を行う。

4. 各看護単位では経験できないが、新人看護職員に必要な知識・技術の修得方法

集合研修の実施:基礎看護技術研修、多重並行業務事例検討、1年目終了時に一人一事例をまとめ、グループで発表しあい互いの事例より学びあう機会を設けている。
ローテーション研修は実施していない。

5. 経験できる技術が少ない場合の工夫

集合研修でフィジカルアセスメントモデルの利用(聴診)、シュミレーターを使用し導尿の実習。基礎看護技術研修を行っている。

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価時期(自由にご記入ください)

看護技術評価表を使用し、6ヶ月後に1回目の自己評価を行い、2回目の自己評価は1年後に行う。

2. 評価者(自由にご記入ください)

実地指導者による他者評価

3. 評価方法(自由にご記入ください)

自己評価を行い、実地指導者による他者評価も行い合わせて結果より部署で一緒に考えて支援の方向性を考えるように支援している。2回の評価を新人委員担当者がまとめて傾向をまとめている。

IV. 指導者等の育成に関すること

1. 実地指導者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

プリセプター(実地指導者)研修を看護部新人委員会が主催し、新人看護職員の入職前2月に集合研修を行う。入職後は5月、7月にプリセプター(実地指導者)の集合研修で新人看護職員指導での悩みや思いを共有している。

2. 教育担当者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

教育担当者は組織図では、各部署の主任・看護部新人委員・チームリーダー、経験豊富なスタッフなどが該当していると考えられ固定はしていない。看護部新人委員会が主催する研修については、委員会内で研修担当グループを作り研修計画や見直しを行っている。毎月の委員会での研修担当グループでの話しあいや研修での進行やまとめを行っている。各部署では、師長・主任・看護部新人委員・チームリーダーなどが協議をしながら指導を行っている。教育担当者にあたる各部署の看護部新人委員の教育を単独で行ってはいない。委員会で研修を主催運営することが学びの場になっていると考える。

V. 事業の評価等に関すること

1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

研修時間の確保。新人看護職員の育成に研修が効果を発揮できるようにアンケートや実施した状況を加味して見直しを行い、研修内容を変更する。新人看護職員が学生から社会人として働いていけるように看護部全体で支援する姿勢を共有するように働きかける。多部門に研修協力依頼を行い、病院全体での支援を受けている。

2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

新人看護職員の離職率は全国平均よりも低い。個人差に応じて待つという支援体制が取れている。教育支援体制をよりよいものにしていくという機運が高まり、組織的な検討がなされるようになってきた。